

平成二十一年月日天皇皇后陛下、皇太子・同妃  
御殿で採取された早春の天津石を贈る。其の事  
界灘に然る布をご献上する。[若布]と書く事  
は、御神體が、皇室・國家の安泰と赤糸にある  
事によつて、昭和三十八年に宗像七浦六漁協が  
宗像大社海神事奉賛会を結成した  
年の機に始まり、今年で三十九回を迎える。  
今年の冬は若布が芽生え  
一月は気温が高く、育成

が危惧されたが、一月に入ると水温も下がり、品質も例年にもないくらい素晴らしい出来具合となつた。若布は二十日には始まつた若布の刈り取りは、寒風刺す嚴寒の玄界灘で行われた、まず畝上用の生若布約五百キロが採取され、その中から更に良質の若布が選り分けられ、真水で丁寧に洗浄し、天日で板乾しされた、磯の香も芳しい新若布が二月二十七日に奉納された。早速巫女の手で畝上用若布に奉製され、畝上品に相

が言上、天皇・皇后陛下に  
へ献上し上げた。  
続いて一行は、宮殿西面  
寄り案内を受け、宮司が記  
帳、次に車にて賢所へ向か  
い飛鳥井掌典を通じて献上、  
その後宮中三殿参拝の栄に  
浴し、皇居での献上の儀を終  
満り無く終えた。皇居を辞  
した宮司以下一行は、赤坂  
東宮御所へ向かい、東宮侍  
従を通じて皇太子・同妃両殿  
下へ献上した。

我が國の創建を祝う建国祭が本殿で厳肅に執行された。この日は寒風吹き荒び、冷え込んだ朝となつたが、午前一時、太田宮司以下神職、巫女、参列者が参進、祓舎で修祓した後、拝殿所定の座に着座、一鼓が鳴らされ経誦が始った。宮司が神武天皇の御靈廟に立つて、毎年建国祭の日が近づくと、各地で建国奉祝賛同がなつた。[建国記念日と世界中どの国でも大切にされる、國の數だけ「建国日」と「国旗」がある]と、各地で祝詞を奏して巫女が蒲囃舞を奉祝する儀式が行なわれた。巫女が蒲囃舞を奉祝する儀式が行なわれた。

少革記とくは守はれの事である。これは韓國が日本本邦を滅ぼすことを祝う事に何ら矛盾はないのである。

現に韓國は檀君紀元三三三年を国を上げてその民族は独自の紀元を有する事を誇りとして國家

年では五七六年で、またイスラーム(ヘブライ)紀元では一四二〇年、に仏教紀元では三五四年に当たると云われて、新しく革命や独立によって生まれた諸国は百年の建国記念日であり、韓國や日本本邦が何千年の歴史を祝う事に何ら矛盾はないのである。

四月十六日(月)	四月一日(日)	四月二日(月)	四月一日(日)	四月二日(月)
午 牛 (田) 神	午 牛 (田)	午 牛 (田)	午 牛 (田)	午 牛 (田)

祭六時	卯十一時	卯十一時
宵宮祭	大祭・氏子泰幣・主基	總社地主祭
地方風俗舞・浦安舞	神社祭・献・若布採取	宵宮祭
通安全講社祭	交彰(神社)	大祭・氏子泰幣・主基
高皇祭	第宮・第三宮祭	地方風俗舞・浦安舞
社中	獻茶祭(南坊流小方)	神社祭・献・若布採取
奉納吟詠大會於清明		總社地主祭
殿(時)		宵宮祭
奉納吟詠大會於境内一 本殿脇		大祭・氏子泰幣・主基
卯九時		地方風俗舞・浦安舞
賑行事		神社祭・献・若布採取
		總社地主祭
		宵宮祭

に供する酒を打ちたゞる。ミキには白  
酒・黒酒・濁酒・清酒・醴  
酒などがあり、造り方も一  
様ではないが、無論で醸酵さ  
せる醴酒、又、箸で抉めるほ  
ど堅いミキも特殊な御供え  
にある。如月・弥生は新酒  
発表「初減出」で誌上賑つ  
た。真新しい杉玉(杉林・  
酒林・酒旗etc)吊され、待  
望した愛飲家を迎える主  
の様は独特の風情がある。  
春立つ時節、いゝ酒とい  
人出会い、「心豊かに」生  
きたいものだ。我が日本の本は  
瑞穂の國、豊かな自然



玄界若布献上

宗像七浦の漁業関係者が示す赤誠

応しいに極上の若布は一・五  
キログラムずつ三箱の杉粧  
目板の畳上箱に納められ、  
畳上当日まで茶館に保管さ  
れた。

ここに本年の海洋神事奉  
贊会の重儀「若布献上の儀」  
は全て羔無く終えた。  
宗像郡内では、この若布  
献上が終わると若布の採取  
が解禁となり水もぬるむ春  
の訪れとなる。

出法は、後漢にわしてきた。）  
「讖緯説」（預言が  
れて居り、これ  
められて年数を  
と呼ばれている  
各国の建国紀

の年数の算  
に盛行した  
説」と云わ  
に拠つて定  
「紀年法」  
元をたずね

平成十三年二月吉日  
宗像大社社務所  
お蔭をもちまして、祭典も無事盛大裡に  
奉行することが出来ました。  
ここに紙面をかり、謹んで御礼申し上げ  
ますと共に、皆様方の益々の御繁榮を心より  
祈念申し上げます。

高い、京都市松尾大社より勧請した。当社境内に立つ松尾神社では、十一月廿四日三月（釀造報賽）に北筑柏屋・糸島・宗像の社氏が揃つて參拜、神酒を供え歎美の祈りを捧げている。



毎月十五日発行  
発行所  
宗像大像  
〒811-3505 福岡県宗像郡玄  
電話 0940 - 62 - 131  
<http://www.munakata-taisha.com>  
定価 一年送料共 100

神具・装束  
結婚式場用品  
株式会社 福岡店 本店

木組の技家  
総合建設業  
株式会社弘江組

成しているのになぜ我が國の立派な建国日を奉祝する事が出来ないのであるか。

皇室の弥栄を祈念し

うすかが、いわゆる立場で「建国」について話し合ふことは大切だが、それは賛成・反対を問う討論ではない。誇るべき本国の精神を学び、先祖の道標を明らかにして、未来に進む指標とすべき「建国論」なのである。

崇禎天皇時代、高橋活日  
が三輪（大明神・大神神社）  
の醸した酒を天皇に献上し  
たことに始まる、と言われ  
る酒の信仰は今日「酒造」  
のしるし 杉吉として残っ



# 縁結びにご利益

## 『相生の櫻』命名式



高富寺と第一・第三宮に向かう参道の鳥居の横に、それぞれの幹から伸びた枝が、

橋をかけるように繋がった  
珍しい桜の木がある。  
古来より枝が幹より仲睦

